

2025年を見据えた自医療機関の役割及び4機能別の病床の変動について

No.	医療機関名	設置主体	2025年を見据えた自医療機関の役割 (病院からの回答)	現状(R2) (時点)						2028年						現状と2025年の病床数の差異									
				機能別病床数 ① (病院からの回答)						機能別病床数 ② (病院からの回答)						②-①									
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養中等 非稼働	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止等	介護医療院への転送	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止等	介護医療院への転送		
1	岐阜県立下呂温泉病院	公立	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き岐阜県の中山間地域におけるへき地中核病院として「生活の場の医療」を提供するとともに、産科、小児科、救急医療等政策的な医療体制の維持・推進を図っていく。 飛騨南部地域として、医師の集約は必須であり、役割分担を含め効率的な医療体制の構築を目指していきたい。 	206		180	26					206		104	102					0	0	▲76	76	0	0
2	下呂市立金山病院	公立	<ul style="list-style-type: none"> 当院は2012年の新築移転の際にすでに病床数の見直しに取り組み、急性期病床67床を50床に減床し 回復期病床46床を49床に増床したところである。 当地の人口は2025年には減少するが、要支援要介護者の人口は2035年まで増大することが予想されており、要支援要介護者も発症時には一旦は急性期病棟に収容されることから、2025年までは急性期慢性期の比率を変更する環境にはないと考える。 また、一昨年の豪雨災害では未明に181名の避難民を緊急に受け入れた実績もあり、昨今の先の見えない感染症状況も考慮すれば、5年後を想定した減床計画は慎重にならざるを得ない。 一般的に当院のような周囲30km圏内に病院がないような僻地にある施設は、有病率の高い疾患については急性期、回復期さらには専門科をこえた総合診療にあたり、専門性緊急性の高い疾患について都市部の専門施設への搬送に徹するのがよい。 	99		50	49					99		50	49					0	0	0	0	0	0
3	国保飛騨市民病院	公立	<ul style="list-style-type: none"> 当院から最寄りの二次医療機関までは33.7km、車で約43分の距離がある。 神岡地域の令和3年1月時点の高齢化率は45.90%に達しており、独居や高齢者世帯で自家用車での長距離の移動が困難な住民が増加している状況は否めないところである。 このような現状を考慮し、高原郷地域の住民が必要な時に必要な医療を享受するためにも、現在の急性期、慢性期病棟は維持する必要がある。また、退院後の在宅生活に円滑に移行するためのリハビリテーションを強化した回復期病床を増床し、退院に向けた支援体制を強化していくことも望まれるところである。 	91		58		33				81		54	27					▲10	0	▲4	0	▲6	0
4	高山赤十字病院	公的	<ul style="list-style-type: none"> 飛騨医療圏における基幹病院として、高度急性期及び急性期機能を中心的に担うとともに、政策医療である「4疾病(精神以外)5事業(救急・がん・へき地・周産期・小児医療)」の体制整備の一層の強化を行う。 三次救急及び救命救急センターについては医師確保等を重要課題として捉え診療体制を堅持する。 地域周産期母子医療センターとして機能を強化し、飛騨地域で安心して出産ができる体制を維持していく。 がん医療については放射線治療、薬物治療及び手術治療の充実を図り、住み慣れた地域で治療や緩和ケア支援が受けられる体制を維持する。 新型コロナウイルス感染症を経験したことから、感染症病床のあり方を含め当院の役割及び機能を検討し、地域の実情に応じた診療の充実を図る。 急性期治療後の患者を円滑に在宅医療・療養に移行できるように回復期機能及び介護老人保健施設を有効に活用し、地域包括ケアシステムの一翼を担う。 働き方改革を見据え、継続的、安定的な医師の確保の上に、地域の地域の実情に見合った魅力ある臨床研修指定病院を目指す。 地域医療介護連携の促進、災害拠点病院の充実、健康社会に向けた健診事業の強化、臨床研修等に係る教育体制の充実。 地域医療構想で議論される必要病床数を鑑み、令和3年4月より許可病床数を472床から394床に削減予定。削減する78床については休床であったため、現状の機能に大きな影響はない。 ※高度急性期・急性期の合計病床数は301床の見込み。なお、内訳は今後変更する可能性あり。 	472	16	349	107					394	16	285	93					▲78	0	▲64	▲14	0	0

2025年を見据えた自医療機関の役割及び4機能別の病床の変動について

No.	医療機関名	設置主体	2025年を見据えた自医療機関の役割 (病院からの回答)	現状(R27.1時点)							2025年							現状と2025年の病床数の差異					
				機能別病床数 ① (病院からの回答)							機能別病床数 ② (病院からの回答)							②-①					
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	介護中等	非稼働	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止等	介護中等施設への転換	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止等
5	久美愛厚生病院	公的	①限られた医療資源の中で「地域完結型」の医療を支える役割を担う必要があり、地域の医療需要に応えるため、急性期から回復期・慢性期医療までの中核的役割(中核病院)を担う。 ②具体的には、次の役割を担うべく取り組む。 「4疾病(精神を除く)にかかる診療体制の充実」「二次救急医療の体制維持」「地域災害拠点病院の体制維持」「地域医療機関等との連携の推進」「予防医療の促進」「地域包括ケアシステム構築に向けた取組みの推進」「第二種感染症指定医療機関の体制維持」「新型インフルエンザ等特別措置法に基づく指定公共機関としての体制の確保」「鳥インフルエンザ、GPF(豚熱)、新型コロナウイルス感染症対応の体制確保」 ③地域の医療需要と経営基盤の効率化から、本会が経営する高山厚生病院の医療療養病床を当院へ移すことを含め、病床機能別の病床数についても見直しを検討する。なお、移管時期・病床数は未定。	288		192	49	23	24		288	172	49	67		0	0	▲20	0	44	▲24		
6病院計				1,156	16	829	231	56	24	0	1,068	16	665	293	94	0	0	▲88	0	▲164	62	38	▲24